

希望の実現へ ～温かい湯船につかりたい～

今回は訪問リハビリを利用されている方の「入浴」についてのご紹介です。退院当初は自宅の浴槽が高く、跨ぐことが困難であったためシャワーのみでした。退院されて生活していく中で新たに生じた「やりたいこと」を「できるように」するお手伝いも訪問リハビリの役割の一つ。

冬に向けて「温かい湯船につかりたい」との希望もあり、目標の一つとして練習を行いました。結果、一人で座って跨ぐことができ、湯船の中からも立てるようになりました。今ではゆっくりと入浴を楽しんでいます。

このように、退院当初は「とりあえず安全な方法で」設定した手段や環境も、徐々に慣れていくと「こういうことがしてみたいな」と、その方の習慣や生活様式を取り戻すべく、意欲が出てきます。そういった時、訪問リハビリでは実際の場面で練習し、再獲得を目指す取り組みを行っています。



湯船の高さ



湯船でのまたぎ練習

【左写真】
湯船の縁の高さは利用者さんの膝上

【右写真】
湯船の縁に座りまたぐ練習風景
この動作に必要な裸足で歩く練習
(普段は装具着用)、股関節周囲のストレッチ、立ち上がりの練習などを行いました

豊田えいせい病院
リハビリ新聞



2022年
1月25日
第33号

協働して望む形にする

令和3年度 静岡県訪問リハビリテーション
多職種協働研修会

訪問看護とリハビリの協働・連携 (事例報告)

～訪問リハビリ事業所と訪問看護ステーションとの連携の可能性～

医療法人社団 恵成会
豊田えいせい病院 診療技術部
在宅リハビリ統括
訪問リハビリテーション科 科長
杉浦良介(理学療法士)

理学療法士 杉浦が、静岡県リハビリテーション専門職団体協議会の研修会にて事例報告をさせていただきました。

訪問に限らずですが、私たちセラピストは、医師や看護師、介護士、他事業所のセラピストとともに連携を取りながら利用者さん家族さんの望む姿の実現にえています。

リハビリ小ネタ 口まわりは大切 シリーズ⑤

今回は疎かになりがちな【咀嚼(そしゃく)】の重要性について、です。【よく噛んで食べる】ことは下記のようにメリットが沢山あります。

「一口30回噛む」ことは聞いたことがあると思いますが、調理の仕方や食物の硬さによっても違います。

重要なのは

「楽しみながらゆっくり食べること」

～ポイント～

- ①胃腸の働きを促進する
- ②むし歯、歯周病、口臭の予防
- ③がんを予防する
- ④脳の働きを活発にする
- ⑤肥満を防止する
- ⑥発音がはっきりとする
などなど



よく噛んでゆっくり食べましょう！

【療養リハビリテーション科職員紹介】

- ・理学療法士7人・作業療法士4人
- ・言語聴覚士2人
- ・歯科衛生士2人・リハ助手1人



豊田えいせい病院 診療技術部

回復期リハビリ科 TEL: 0538-34-6123 FAX: 0538-34-6231
療養リハビリ科 回復期リハビリ科と共通
通所リハビリ科 TEL: 0538-34-6223 FAX: 0538-34-6222
訪問リハビリ科 TEL: 0538-34-6137 FAX: 0538-34-6231